

2026年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任			
地理歴史	日本史探究発展	2	3年次	小林 琢			
選択するときの条件							
使用教科書	山川出版社 詳説 日本史探究(日探705)	使用副教材	第一学習社 最新日本史図表／詳説日本史10分間テスト 山川 日本史用語集				
科目の目標			道徳教育のねらい				
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、総合的に捉えて理解するとともに、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、歴史的経緯を踏まえて、現代の日本の課題を発展的に探究する。また、他教科・科目で学んできた知識や概念などを複合的に活用しながら、適切な課題を設定し、より多面的・多角的な考察を効果的に行うことを目標とする。			よりよい社会の実現を目指す国家および社会の形成者としての態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
学習活動内容		育てたい6つの力（資質・能力）					
		1	2	3	4	5	6
		主体的 学習力	基礎力	思考・ 分析力	発信・ 表現力	自己認知 ・協働力	計画 実行力
歴史資料と近代・現代の展望							
1	①五箇条の誓文と国是 ②貿易の変遷からみる日本の近代・現代	◎	◎	◎	○		
2	第12章 近代国家の成立	◎	◎	◎	◎	○	
3	第13章 近代国家の展開	◎	◎	◎			
4	第14章 近代の産業と生活	◎	◎	◎	○	◎	
5	第15章 恐慌と第二次世界大戦	◎	◎	◎	○		
6	第16章 占領下の日本	◎	◎	○	○		
7	第17章 高度成長の時代	◎	◎	○	○		
8	第18章 激動する世界と日本	◎	◎	○			
9	1 法制史	◎	◎	○	○	◎	
10	2 社会経済史	◎	◎	◎	○	◎	
11	3 文化史	◎	◎	○	○	◎	
12	4 宗教史	◎	◎	○	○	◎	
13	5 政治史	◎	◎	○	○	◎	
14	6 外交史	◎	◎	◎	○	◎	
15	7 学問史	◎	◎	○	○	◎	
16	8 芸術史	◎	◎	○	○	◎	
17	9 産業史	◎	◎	◎	○	◎	
18	10 軍事史	◎	◎	○	○	◎	
19	11 女性史	◎	◎	○	◎	◎	
20	ペア・グループワーク	◎			◎	◎	◎
21	課題提出	◎	○		○	◎	◎
22	考査・小テスト・単元テスト		◎	◎			◎
評価の観点	知識・技能	思考 判断 表現		主体的に学ぶ態度			
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
評価の方法	次の3観点において、各資料をもとに総合的に評価し、5段階の評定をする。また、各観点については、到達度により総合的に評価し、A・B・Cの3段階で評価する。						
	A: 目標に対する到達度が70%～100%		B: 目標に対する到達度が45%～69%		C: 目標に対する到達度が0%～44%		
	教科・科目における各観点	授業における取組		定期考査など		ノートやレポートなどの課題	
	知識・技能	◎	◎	◎	◎	◎	◎
思考・判断・表現	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
主体的に学ぶ態度	○	○	○	○	◎	◎	

歴史総合 授業計画

授 業 計 画				実施状況			
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省		
前 期	4	歴史資料と近代・現代の展望 第IV部 近代・現代 第12章 近代国家の成立	昨年までの授業内容を振り返り、近現代の事象についての知識を整理して統合的な学びへと発展させるため、例を用いながら資料を活用して探究を深める契機とする。 明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。	①五箇条の誓文と国是 ②貿易の変遷からみる日本の近代・現代 1 明治維新と富国強兵	1 1 3	1 1 5	
	5	第13章 近代国家の展開	政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 第一次世界大戦前後の政治的動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。	2 立憲国家の成立 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	2 2 2 2	2 6 2 2	
	6	第14章 近代の産業と生活	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。	1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	2 2 2	6 2	
	7	第15章 恐慌と第二次世界大戦	戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。	1 恐慌の時代 2 軍部の台頭	2 3	7 3	
	8	第16章 占領下の日本	日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにもなう諸改革について、その経過と内容を理解する。	3 第二次世界大戦 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	2 2 2	2 4 2	
	9	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。 独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。	1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長へ 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	2 2 1 2	4 2 3 2	
		前期未考査			1	1	
	後 期	10	1 法制史 2 社会経済史 3 文化史	これまでの学習内容を振り返り、近現代の事象についての知識を整理して統合的な学びへと発展させるため、資料などを活用して探究を深めるきっかけとする。		2 2 2	2 2 2
		11	4 宗教史 5 政治史 6 外交史 学年未考査			2 2 2 1	2 2 2 1
		12	7 学問史 8 芸術史 9 産業史 10 軍事史 11 女性史	これまでの学習内容を振り返り、近現代の事象についての知識を整理して統合的な学びへと発展させるため、資料などを活用して探究を深めるきっかけとする。		2 2 2 2 2	2 2 2 2 2
					60	60	